



Ahresty

ANNUAL REPORT 2008

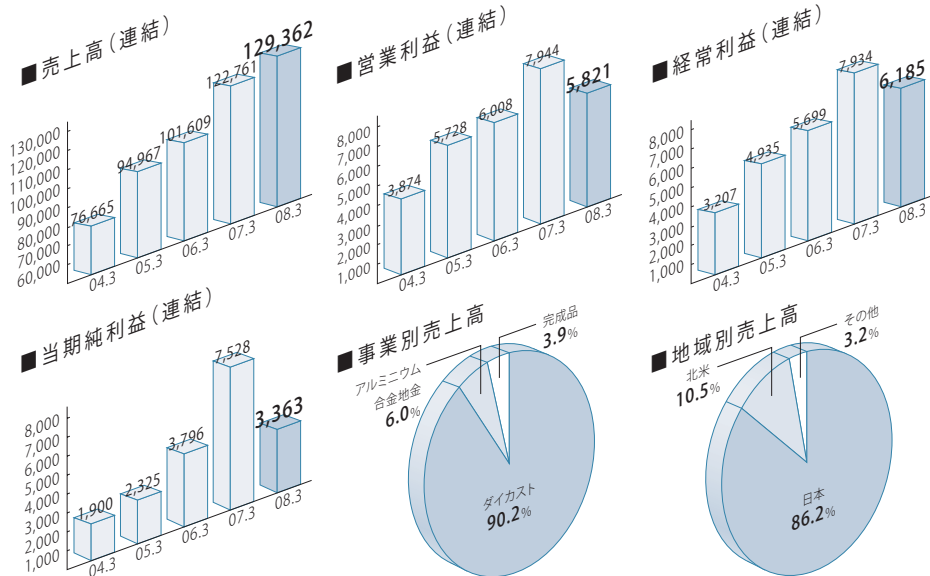
The Year Ended March 31 2008

Profile

Research, Service, Technologyを追求していきます

アーレスティは、R・S・T<Research><Service><Technology>という三つの言葉の統合です。Rは単に研究・開発だけでなく、より一層お客様のお役に立っていくための創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点、そしてTはこのRとSを支える知識と技術を示しています。私たちは常に、より品質の高いResearch、Service、Technologyを追求し、さまざまな製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

Financial Highlights 業績ハイライト(単位：百万円未満切捨)



Contents

2 Business Overview

期中のトピックス

3 This is RST

ビジネスモデル
沿革

5 An Interview with the President

社長インタビュー

7 Segment Review

ダイカスト
アルミニウム合金地金
完成品

13 Network

グローバル展開

15 CSR

社会への貢献
環境への対応

17 Corporate Governance

コーポレートガバナンス等

18 Corporate Data

会社概要

Business Overview

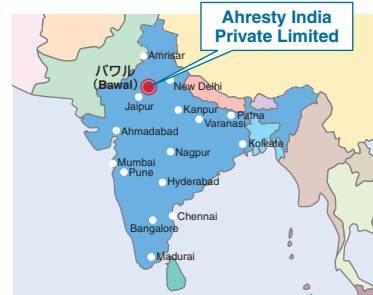
アーレスティメヒカーナ量産開始

07年8月 アーレスティメヒカーナは、計画よりも1ヶ月前倒しでの量産を開始致しました。第1期計画は、日系部品メーカーがお客様ですが、自動車メーカーからの受注も決まっており、さらなる営業活動を行っています。他、日系以外の自動車関連企業からの引合いも相次いでおり、地元ダイカストメーカー等の競合は多数ありますが、順調に成長しています。



アーレスティインドア建設開始

07年10月 メキシコに続き海外で4番目のダイカスト生産拠点であるアーレスティインドアの建設に着工しました。工場建設と同時平行でダイカストマシンの据付工事を開始するなど、08年秋の生産開始を目指し急ピッチで建設を進めています。



生産再編

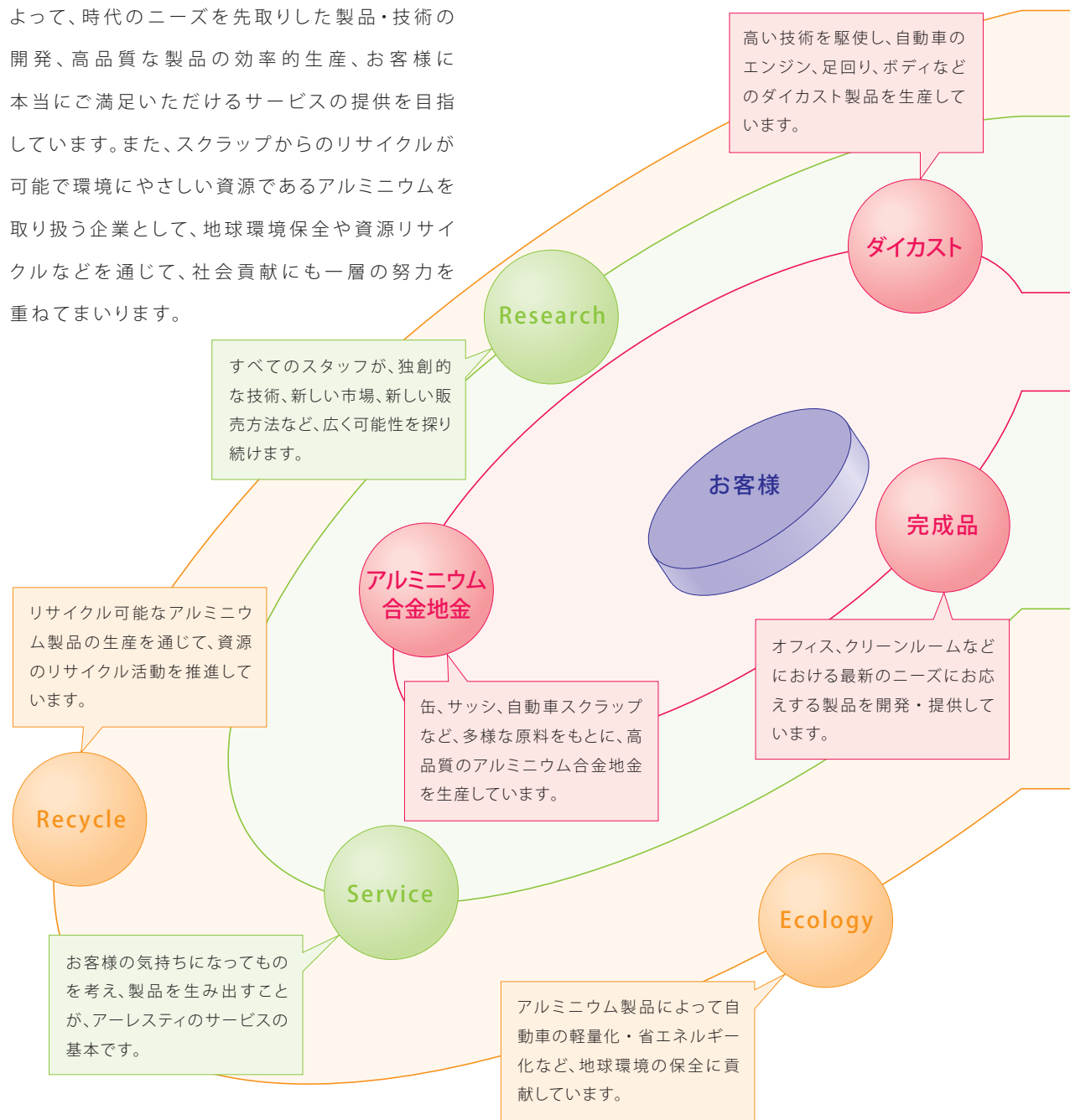
東松山工場で生産している中小物の普通鋳造品を08年度中にアーレスティ山形へ全面移管し、規模の拡大をはかるとともに、現在浜松工場にありますNI鋳造品生産ラインを東松山工場に移管し、高品位ダイカスト品を生産する特殊鋳造品専用工場とし、高品位ダイカスト品の生産体制強化を進めてまいります。



This is R S

Our Business

私たちは、社名に込められたResearch、Service、Technologyという3つの理念を大切に、業界トップレベルの技術と設備、豊富なノウハウによって、時代のニーズを先取りした製品・技術の開発、高品質な製品の効率的生産、お客様に本当にご満足いただけるサービスの提供を目指しています。また、スクラップからのリサイクルが可能で環境にやさしい資源であるアルミニウムを取り扱う企業として、地球環境保全や資源リサイクルなどを通じて、社会貢献にも一層の努力を重ねてまいります。



Our History

- 1938年 6月 ● 当社の前身志村アルミニウム株式会社創立
アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1943年 11月 ● 扶桑軽合金株式会社を設立、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1960年 3月 ● 株式会社日本精密金型製作所
(現：株式会社アーレスティ ダイモールド浜松)を設立
- 7月 ● 扶桑軽合金株式会社浜松工場操業開始
- 1961年 10月 ● 扶桑軽合金株式会社の株式を東京証券取引所第2部に上場
- 1962年 4月 ● 東海精工株式会社設立
- 1963年 3月 ● 京都ダイカスト工業株式会社豊橋工場(現：豊橋工場)操業開始
- 1964年 1月 ● 扶桑軽合金株式会社技術研究所完成
- 1967年 8月 ● 台湾通用工具股份有限公司
(現：台湾阿雷斯提模具股份有限公司)を設立
- 1971年 4月 ● 栃木フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ栃木)を設立
- 1972年 3月 ● 株式会社ダイテック(現：株式会社アーレスティダイモールド栃木)を設立
- 1977年 4月 ● 熊本フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ熊本)を設立
- 1981年 3月 ● 株式会社ダイテック熊本工場(現：株式会社アーレスティダイモールド熊本)操業開始
- 1984年 7月 ● 扶桑軽合金株式会社熊谷工場操業開始
- 8月 ● 扶桑軽合金株式会社東松山工場操業開始
- 1985年 5月 ● パスカル販売株式会社(現：株式会社アーレスティテクノサービス)を設立
- 1988年 5月 ● Ahresty Wilmington Corporationを設立
- 10月 ● 社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アーレスティに変更
- 1989年 10月 ● 株式会社アーレスティ '89年度デミング賞実施賞(中小企業賞)受賞
- 1997年 2月 ● Thai Ahresty Die Co., Ltd.を設立
- 3月 ● 株式会社アーレスティ ISO9001(建材)認証取得
株式会社アーレスティ ISO9002(ダイカスト・アルミニウム)認証取得
- 2001年 3月 ● 株式会社アーレスティ ISO14001認証取得
- 7月 ● Thai Ahresty Engineering Co., Ltd.を設立
- 2003年 8月 ● 広州阿雷斯提汽车配件有限公司を設立
- 10月 ● 京都ダイカスト工業株式会社と株式会社アーレスティが合併
- 11月 ● 第20回素形材産業技術表彰にて「経済産業大臣賞」受賞
- 2005年 3月 ● 阿雷斯提精密模具(広州)有限公司を設立
- 4月 ● パスカル工業株式会社と菅原精密工業株式会社が合併し、社名を株式会社アーレスティ山形に変更
- 6月 ● 本社を東京都中野区中央に移転
- 2006年 6月 ● Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.を設立
- 9月 ● テクニカルセンター開設
- 2007年 1月 ● Ahresty India Private Limitedを設立

Global Network

より早く効率的に製品を安定供給するために、グローバルなネットワーク展開を行っています。

Technology

スタッフ一人ひとりがお客様の課題に真剣に取り組み、ノウハウを積み重ね、独自の技術を生み出しています。

An Interview with the P



ステークホルダーの 皆様の信頼を礎に、 グローバルな視点で飛躍する

昨年に引き続き2007年度も過去最高の売上高となりました。2002年度では660億円程度でしたので、この5年間でおよそ倍増となりました。これは国内外におけるお客様からのアールスティに対する信頼の証ではありますが、グローバルでの自動車生産の増大と燃費向上のための軽量化の進展も追い風となりました。しかし一方で収益性に関しては、価格競争の激化や一部工場の収益悪化に加え、税制の変更による償却負担増により減益となりました。

2007年度では、海外展開を更に推進いたしました。従来アメリカ工場からメキシコのお客様に遠路運んでいた製品をメキシコ工場の操業開始により生産移管を進め、メキシコのお客様へより良いサービスを提供できるようになりました。一方、アメリカ工場ではメキシコへの移管により一時的に生産量が減少し収益的にも厳しくなりました。現在アメリカ地域での新規部品の獲得を進め売上確保に努めております。また、広州にある中国拠点の工場を増築、設備の増設を続けており増収増益となりました。広州拠点はまもなく拡張限界となるため、現在広州地区における分工場の設立を計画中です。さらに、

取締役社長 高橋 新

new resident

近年注目されるインドでは年内生産開始に向けて工場を建設中です。

国内においては、グループの経営資源の効率化とコアであるダイカスト事業への集中を考慮し子会社の統合・拡充を行いました。アーレスティキャスティングサポートの解散、天竜金属、シー・エス・フソー、アーレスティテクノサービスの3社合併、アーレスティダイモールドをアーレスティダイモールド栃木と熊本への分社、浜松メカテックの東海精工への吸収、アーレスティライトメタルの豊橋工場への吸収を実行し、実質4社の子会社が減少しております。2008年度になります東松山工場における中小物のダイカスト生産はアーレスティ山形に集約し効率向上を目指し、浜松工場にあるNI casting (高品質特殊 casting) を東松山工場に移管し特殊 casting の成長加速基盤の整備と浜松工場での普通ダイカスト生産

一貫化の促進基盤の整備を進めております。

このような諸施策などにより、サブプライムローン問題による一時的な需要の不透明感ではありますが、中長期的な自動車需要と軽量化要求の拡大に対し、これらの拠点をベースとし更にグローバルでお客様から信頼されるアルミダイカストをコアとした自動車部品メーカーへの飛躍を進めます。

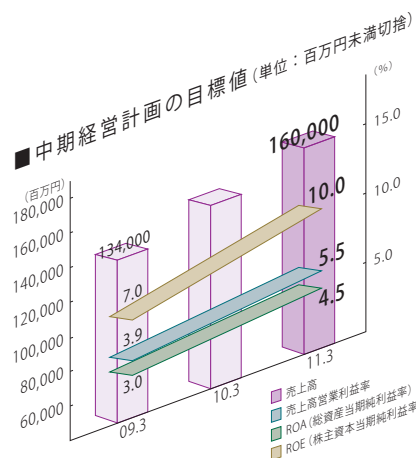
残念ながら2008年3月に子会社であるアーレスティ栃木において重大災害を発生させてしまいました。安全なくして企業の存続意義も成長もありません。アーレスティグループ全体で安全を徹底してまいります。

アーレスティは、株主・投資家の皆様をはじめ、顧客、取引先、従業員、社会から信頼される企業として、健全な成長を目指してまいります。今後もアーレスティにご期待くださいますようお願い申し上げます。

中期経営計画の骨子

グローバル規模での体制整備、人材の確保・育成で、均一かつ高水準な生産性を確保する

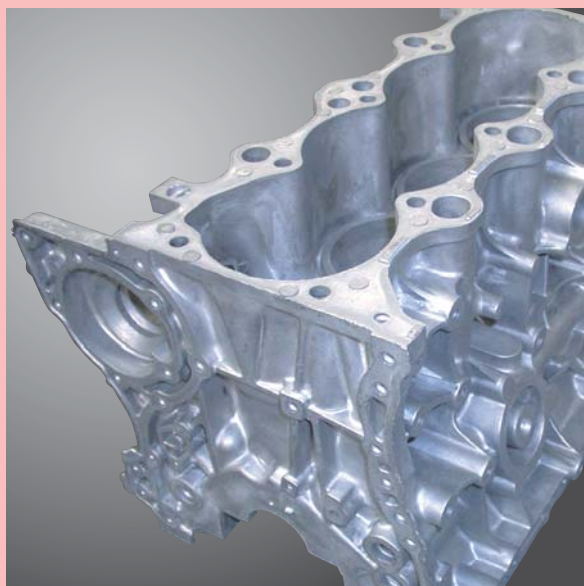
「グローバル企業として進化する」、「現場力を強化する」の2つを主な方針として展開してまいります。当社グループは、海外では米国、中国、メキシコ、インドにおいてダイカスト生産を行っておりますが、海外生産の比率は今後益々高まっていくと予想されます。当社が更に成長・進化していくために、グローバル規模での営業体制、設計・開発体制、品質システム等を整備し、その支えとなる人材の確保と育成も併行して進め、グローバル企業としてふさわしい体制を整備して対応してまいります。また、どの工場においても高レベルで同一水準の生産性を確立するための最適生産システムの構築を進めてまいります。



Segment

ダイカスト

他社に先駆けて新技術を次々と開発。
ダイカスト業界で
トップレベルの信頼を獲得。

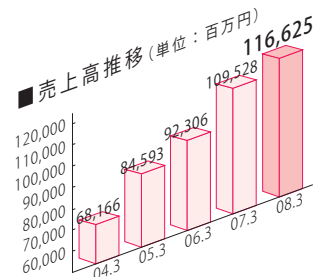


アーレスティの主力事業はアルミニウムダイカストです。自動車産業の発展とともに事業規模を拡大し、売上を伸ばしてきました。多様化するニーズに応える一方で、ダイカストのネック技術の原因解明を行ってきた結果、他社に先駆けて新技術を次々と開発。従来ダイカストでできなかったものづくりを可能にし、品質や生産効率を向上させるなど、ダイカスト業界での地位を確立しています。今後も、アルミニウムダイカスト、マグネシウムダイカストにおいて、軽量化、リサイクルを通して環境保護に貢献できるよう、さらなる技術革新を目指していきます。

Review

📦 今期の業績報告

ダイカスト事業におきましては、主要取引先である自動車メーカーの国内販売の減少、北米におけるサプライローン問題の影響などにより自動車販売台数が減少しましたが、新興国向けへの輸出の増加に支えられ、売上高は116,625百万(前年同期比6.5%増)となりました。収益面においては、販売費の削減や原価低減活動を推進しましたが、税制改正に伴う減価償却費の負担増の影響などが大きく、営業利益は5,019百万円(同30.1%減)となりました。



📦 来期への展望

原油価格、原材料価格の上昇、為替変動などにより先行きは不透明感がありますが、当社主要顧客である自動車メーカーおよび自動車部品メーカーのグローバルでの需要は、伸びが鈍化するものの増加が予想されます。収益面では税制改正に伴う減価償却費の負担増となり減益を余儀なくされておりますが、「グローバル企業として進化する」「現場力を強化する」を旗印に、グローバル標準類の整備、人材の確保・育成、グローバル生産体制の構築等を推進していきます。

技術・開発・営業最前線

新工法を用いた製品開発を推進

「グローバルで運用する技術標準の確立」が技術部の最大の課題です。08年3月期は、国内に存在する作業標準や手順書をすべて収集、整理し、その中から作業として優れている標準、手順の抽出や文章化すべきベテランのノウハウ、作業の洗い出しを実施しました。09年3月期は重要度、緊急性を考慮し、部品や決め事だけの標準化ではなく考え方の標準化を目指してゆきます。さらにアーレスティのもつ新工法を用いた製品開発を進めており、世界同時立ち上げに対応する技術の玉成を目指しております。



執行役員
技術部長
工学博士 三中西 信治

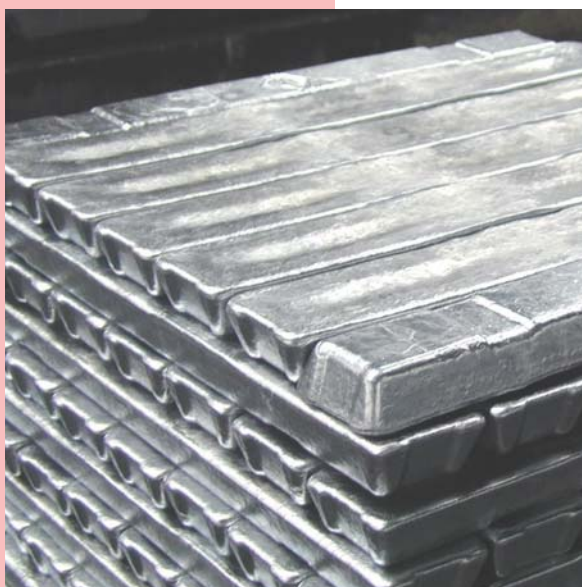
環境対応の新市場でアーレスティの真価を発揮

09年3月期は新3ヵ年計画のスタートの年ですが、非常に厳しいと予測しています。国内市場や北米市場の縮小傾向が続くと予測されます。しかし、車の全世界生産は伸びています。市場ニーズに合ったエンジンやトランスミッションに如何に当社の部品が採用されるかで環境はがらりと変わります。今後、開発競争が激しくなる環境車には注視しています。新たな市場ができる中、アーレスティの営業活動の真価が問われる年と考えています。



執行役員
営業本部長
金田 尚之

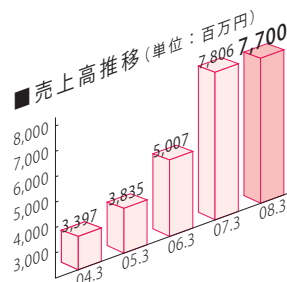
業界トップクラスの設備とノウハウで、 多様な材料から高品質の製品を生産。



アーレスティ熊谷工場は、1958年、業界初の日本工業規格（JIS）表示許可工場に認定され、1997年には、改正民活法におけるアルミニウム缶リサイクル施設として、全国で初めて通産省から認定を受けました。アルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなど、多様な原料をもとに機械的性質に優れたアルミニウム合金地金を生産しています。アーレスティが持つ最新の設備、卓越したリサイクルのノウハウによって、工業用地金として活用されています。アルミニウムインゴットの月産能力は3,000トン。日本各地へと出荷され、高い信頼を得ています。

■ 今期の業績報告

アルミニウム事業におきましては、主力の自動車産業向け二次合金地金の出荷は堅調に推移しましたが、非自動車関連向けでは、第3四半期以降、在庫調整または需要の減少から出荷が伸び悩み、売上高は7,700百万円(前年同期比1.4%減)となりました。また、収益面においては、生産性の改善等を進め製造原価の低減を図りましたが、原料、重油等の諸資材の価格上昇を吸収することが出来ず、営業利益は395百万円(同9.4%減)となりました。



■ 来期への展望

「社会と共に歩む企業」を実現するため、当事業は循環型社会の構築の一翼を担う自負を持ち、今後ますます増加し続けるアルミニウム需要に対し、再生事業を通じて社会への責務を果たし、海外生産拠点の設置も視野にアルミリサイクル事業の拡大と収益向上を目指してまいります。

営業最前線

生産体質の強化と作業環境改善に取り組む

今期は、セグメント間の内部売上高を64.7%増やすことで、総売上高では前年比9.2%増の10,144百万円となりました。取扱量も、売上増により目標であった年間36,000トンを上回る36,678トンを達成することができました。09年3月期では、製造各工程のバラツキを洗い出し、人や物の動き・働きを見極めることで生産体質の強化を図ると共に、工場内全域での作業リスクを洗い出し、安全面を重視した作業環境改善への取り組みを行なっていきます。また販売面では、セグメント間の内部販売量拡大を重視することで、総取扱量の拡大を図っていきます。さらに、今後も重油価格高騰が懸念されることや、地球温暖化対策のためCO₂総排出量削減を図る必要性があることから、重油から都市ガスへのエネルギー変換を推進する初年度と位置付けております。



執行役員
熊谷工場長
酒井 和之

完成品

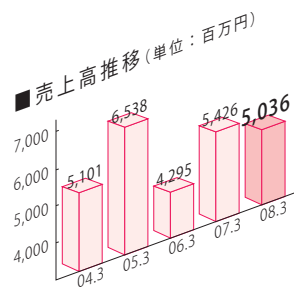
各方面で導入が進むフリーアクセスフロア。 時代のニーズに応じて次々と新製品を開発。



1962年、日本初のアルミニウムダイカスト製フリーアクセスフロアを開発しました。以来、時代のニーズに応え、次々と新商品を開発しています。フリーアクセスフロアとは、コンピュータ室や放送スタジオなど、配線が多い部屋で、その配線が邪魔にならないように収納できる二重床のことです。最近是一般オフィス、病院、クリーンルーム、新しく建築されるインテリジェントビルは、すべて二重床です。アーレスティのフリーアクセスフロア『モバフロア』は、都庁舎（東京・新宿）、センチュリータワー（東京・水道橋）、ランドマークタワー（横浜・みなとみらい21）、関西国際空港、東芝四日市工場（三重）などで採用されています。

■ 今期の業績報告

完成品事業では、昨年6月の建築基準法改正等の影響により新築物件の着工に遅れが生じたことや、半導体関連の設備投資が予想通りに伸びなかったことにより、売上高は5,036百万円(前年同期比7.2%減)となりました。また、収益面においては、利益率管理の営業活動を進めたものの、価格競争の激化等の影響もあり、営業利益は409百万円(同13.5%減)となりました。



■ 来期への展望

国内外の競合メーカーとの価格競争が激化する中、クリーンルーム向けアルミダイカストフロア(モバフロア)の一貫生産、海外生産拠点の活用による原価低減を進めるとともに、利益率重視の営業活動を推進し、海外売上高の拡大も視野に事業拡大と収益向上を目指してまいります。

営業最前線

価格競争力をつけ国内外での売上拡大を図る

08年3月期は、フリーアクセスフロア業界全体の出荷量は5,654千㎡と前年度並でありましたが、アルミパネルの出荷量が前年を大きく下回り256千㎡(前年比71.5%)となりました。主な要因は、半導体関連の設備投資が減速基調となったことや、依然として長引く建設業界の低迷が考えられます。このような環境の中において、原材料の価格高騰、又国内外の競合他社との価格競争を強いられ、厳しい展開となりました。その結果、売上の拡大を目指して営業活動を行ってまいりましたが、減収減益となりました。09年3月期の見通しは、依然として厳しい状況下にはありますが、半導体関連の設備投資の回復が予測され、アルミパネルの需要が見込める為、中国広州工場での生産体制を充実させ、価格競争力をつけ国内、海外での売上拡大を積極的に行ってまいります。



商品営業部長
堤 洋一

Network

世界中のお客様のニーズに対応するため、積極的にグローバル展開を推進しています。

より早く効率的にお客様に製品を安定供給するため、アーレスティは積極的に海外展開を推進しています。アメリカ オハイオ州ウィルミントンに次ぎ、中国広州、メキシコにもダイカスト製造工場を設立し、順調に生産量を拡大しています。08年秋にはインドでもダイカスト製造工場が立ちあがります。これまで培ってきた技術とノウハウをそのまま活かし、高品質な製品をグローバルで製造・販売しています。また台湾、タイ、広州の金型拠点も含め、材料・金型・ダイカストなどすべての事業において相互補完体制を構築し、グローバルかつグループ・ワイドでの全体最適の実現を目指しています。



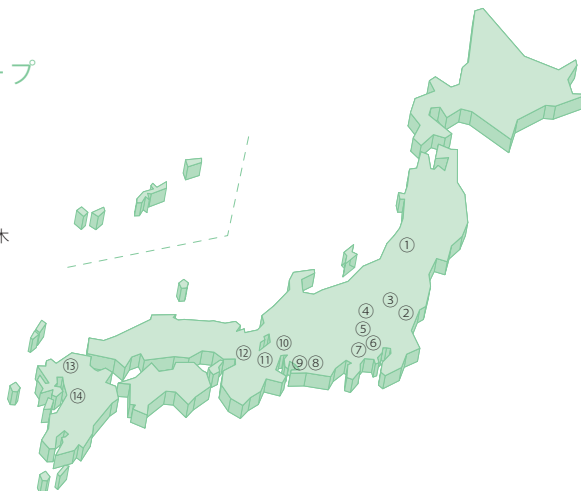
Ahresty India Private Limited

08年秋操業開始予定。海外第4の拠点としてダイカスト製品製造、機械加工を担っていきます。
Plot No. 194, Sector 4, Phase-II Growth Centre,
Bawal, Rewari, Haryana, India

国内ネットワーク

アーレスティグループ

- ① (株)アーレスティ山形
- ② (株)ATCつくば
- ③ 栃木営業所
(株)アーレスティ栃木
(株)アーレスティダイモールド栃木
- ④ 熊谷工場
- ⑤ 東松山工場
- ⑥ 本社
関東営業所
(株)アーレスティテクノサービス
- ⑦ 厚木営業所



- ⑧ 浜松営業所
浜松工場
(株)アーレスティダイモールド浜松
東海精工(株)
- ⑨ 豊橋工場
テクニカルセンター
- ⑩ 名古屋営業所
- ⑪ 鈴鹿出張所
- ⑫ 大阪管理センター
大阪営業所
関西営業所
- ⑬ 福岡営業所
- ⑭ 熊本営業所
(株)アーレスティ熊本
(株)アーレスティダイモールド熊本

※2008年5月31日現在



Ahresty Wilmington Corporation

売上が伸びつつある北米の拠点として機能。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は1,500トン。

2627 S.South Street, Wilmington, Ohio 45177, U.S.A.



広州阿雷斯提汽车配件有限公司

04年度に操業開始。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担い、日系企業に供給しています。月産能力は700トン。
中華人民共和国広東省広州経済技術開発区永和経済区新豊路7号



Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.

07年8月操業開始。米国のAhresty Wilmington Corporationとの生産補完により、ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を行います。月産能力は300トン。

Calle Industria Automotriz #20
Complejo de Naves Industriales la Zacatecana
Guadalupe, Zacatecas C.P.98600



東松山工場

〒355-0812
埼玉県比企郡滑川町大字都25-27
TEL.0493-56-4421



熊谷工場

〒360-8543
埼玉県熊谷市御稜ヶ原284-11
TEL.048-533-5161



浜松工場

〒433-8520
静岡県浜松市中区小豆餅4-14-1
TEL.053-436-2111



豊橋工場

〒441-3153
愛知県豊橋市二川町字東向山80
TEL.0532-41-0511



株式会社アーレスティ山形
〒992-0832
山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥乙65
TEL.0238-85-5233



株式会社アーレスティ栃木
〒321-0215
栃木県下都賀郡壬生町大字壬生乙4060
TEL.0282-82-5111



株式会社アーレスティ熊本
〒869-0521
熊本県宇城市松橋町浦川内36
TEL.0964-33-3111



テクニカルセンター
〒441-3114
愛知県豊橋市三弥町中原1-2
TEL.0532-65-2170

Corporate Social

In-House Activity

社会に貢献していく企業であるために…。
そのための努力を絶えることなく続けていきます。

アーレスティはお客様のビジネスの発展に貢献していくことはもちろん、企業市民としての社会的な責任を重視した活動にも積極的に取り組んでいます。環境保全活動への全社的な取り組みに加え、全社員一人ひとりが遵守すべき事項となる「アーレスティコンプライアンス基本方針」と日常の業務遂行において遵守すべき基本的事項を定めた「アーレスティグループ行動規範」を制定。コンプライアンス委員会事務局を設置し、企業活動を行うにあたって適用される法令をはじめ、企業倫理、社内規定を遵守する体制を強化しています。

アーレスティグループ行動規範



- ① 法令等の遵守（規範の趣旨・遵守の責任に関する規定）
- ② 顧客・取引先との関係（自由競争と公正な取引等に関する規定）
- ③ 株主・投資家との関係（企業情報、インサイダー取引等に関する規定）
- ④ 従業員との関係（人権尊重、プライバシーの保護等に関する規定）
- ⑤ 会社財産・情報の管理（企業秘密、知的財産等に関する規定）
- ⑥ 社会との関係（寄付行為、政治献金等に関する規定）
- ⑦ 実施要領について

社員研修



お客様に、より質の高い技術とサービスを提供するために、QCサークル活動等を積極的に行い、技術と意識を高めていく努力を続けています。

工場見学の積極的な受け入れ



地域コミュニケーションの一環として、また環境活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくため、積極的に工場見学を受け入れています。

Responsibility

For Environment

環境負荷をできるかぎり減らす努力を重ね、「環境にやさしい企業」を目指しています。

アーレスティでは、美しい地球環境を守るために、私たちが持つ技術の応用、環境に配慮した製品づくりなどの面から、一歩一歩環境保全活動を続けています。原料からつくる場合の約3%のエネルギーで再生できるアルミニウムは「リサイクルの優等生」と呼ばれ、自動車の軽量化を通してCO₂削減に貢献するなど、環境にやさしい性質を持った金属です。私たちは循環型社会を推進するリサイクル事業と、廃棄物ゼロ活動や省エネ・省資源、LCA(Life Cycle Assessment)などに積極的に取り組むことによって「環境にやさしい企業」の実現を目指しています。

ISO14001 認証取得



ISO14001 : 2004認証取得
本社、浜松工場、東松山工場、
熊谷工場、豊橋工場、
テクニカルセンター、
株式会社アーレスティ栃木、
株式会社アーレスティ熊本、
株式会社アーレスティ山形

左記の事業所等で
ISO14001 : 2004
認証を取得し、地
球環境の保全に貢
献しています。

環境・社会報告書2008



アーレスティでは、毎年、環境・社会報告書を発行しています。事業活動を通じた環境への取り組みを、ステークホルダーの皆様

に広くご理解いただけるよう努めています。

環境保全への配慮

廃棄物ゼロ工場を目指し、廃棄物再資源化に取り組んでいます。従来埋め立て処分されていた汚泥を、路盤材や再生砂にリサイクルできるようにしたことが一例です。



リサイクル一例

地域社会でのボランティア活動



アーレスティでは、地域との共生を目指した活動を重視しています。

地域社会への貢献として、植林活動、里山づくりボランティアを積極的に行っています。

Corporate Governance

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、開発力・技術力を基盤として軽量なアルミニウムの特性を活かした新分野の開発を進める一方、低コストの実現、高品質化による差別化を追求してきました。顧客・株主/投資家・従業員・取引先・社会という「すべてのステークホルダーから信頼される企業」を目指すためにも、企業価値の継続的な向上が重要であることを認識し「競争力の強化」「透明性の高い健全な経営」の観点より、コーポレート・ガバナンスの充実を図りながら経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築するべく推進してまいります。

コンプライアンス基本方針

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し役員および従業員は、自らの行動または業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- ① 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- ② 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- ③ 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- ④ 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- ⑤ 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- ⑥ 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- ⑦ 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- ⑧ 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- ⑨ 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- ⑩ 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。

Corporate Data

会社概要 (2008年3月31日現在)

商号 株式会社アーレスティ 資本金 51億1,759万円
 設立 1943年11月2日 従業員数 【連結】 3,628名
 【単独】 1,042名

役員

■取締役および監査役の氏名 (2008年6月24日現在)

代表取締役社長 最高執行責任者 高橋 新 取締役 執行役員 林 禎一 常勤監査役 熊木 勉
 取締役 執行役員 小木 旭 取締役 執行役員 古屋 茂 常勤監査役 見目 康夫
 専務執行役員 取締役 宮内 忠一 監査役 早乙女 唯夫
 監査役 志藤 昭彦

Investor Information

株式状況 (2008年3月31日現在)

●株式数および株主数

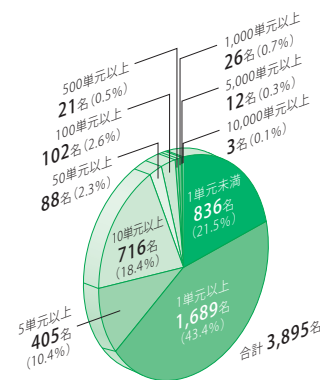
会社が発行する株式の総数 60,000,000株
 発行済株式総数 21,778,220株
 株主数 3,895名

●大株主 (上位10名)

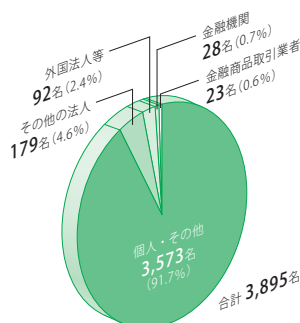
株主名	持株数 (千株)
モルガンスタンレーアンドカンパニー インク	1,390
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社信託口	1,142
高橋 利江	1,075
モルガンスタンレーアンドカンパニー インターナショナルピーエルシー	909
株式会社三菱東京UFJ銀行	765
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社信託口	734
本田技研工業株式会社	672
日本軽金属株式会社	657
スズキ株式会社	565
株式会社みずほコーポレート銀行	544

株式の分布状況

●所有株数別株主分布



●所有者別株主分布





〒164-0011
東京都中野区中央 1-38-1
住友中野坂上ビル 11F
TEL.03-5332-6001
FAX.03-5332-6037
URL.<http://www.ahresty.co.jp>



地球環境に配慮した大豆油インキを使用しています。